

公立大学法人広島市立大学理事長候補者の決定について

現理事長が令和7年3月31日をもって任期満了となるため、公立大学法人広島市立大学理事長選考会議で選考を行いました。その結果、前田香織特任教授（最高デジタル責任者）・理事長補佐を次期理事長候補者（新任）とすることを決定し、理事長から広島市長へ次期理事長の任命を申し出ましたので、お知らせします。

任期は令和7年4月1日から令和11年3月31日までの4年間です。

1 選考経過（令和6年）

- 5月 8日 第1回理事長選考会議（理事長候補者選考に係る日程及び公示案の決定）
- 5月 9日 理事長候補者選考日程等に係る公示
- 5月 9日～7月26日 理事長選考対象者推薦受付
- 7月31日 第2回理事長選考会議（理事長選考対象者の決定）
- 9月17日 第3回理事長選考会議（書類審査、面接審査）
- 10月22日 第4回理事長選考会議（理事長候補者の決定）

2 選考理由

公立大学法人広島市立大学理事長選考会議は、理事長候補者の選考に当たり、「人格」、「学識」、「大学における教育研究活動を適切かつ効果的に運営することができる能力」及び「法人の経営管理能力」の4つの審査項目に基づき、書類審査及び面接審査を実施した。

前田香織氏は、開学した1994年から本学に在籍し、情報科学研究科長をはじめ、情報処理センター長、附属図書館長、副理事、理事長補佐など重要な役職を歴任してきた。その間、率直で筋の通った説得力ある論を展開すると同時に、周囲へのきめ細かな配慮や多様な意見に耳を傾ける柔軟性と謙虚さも兼ね備え、やると決めたことには労をいとわず情熱をもって献身的に取り組んできた。さらに、政府、地方自治体、公共事業団体、民間企業など、多くの団体で委員や取締役等を歴任しており、学内外の信頼を得ている。

自身の研究・教育活動では、情報ネットワーク及びインターネットアーキテクチャの専門領域において、数多くの学会発表、科学研究費等外部資金の獲得、受託研究の受け入れなど、豊富な実績を残している。研究科長・学部長として大講座制への移行などの改革を実行し、さらに、地域に根差したICT利活用の推進、産学連携教育の立ち上げなど、時代の変化に即応した学内外での貢献も顕著である。これまでの経験や実績を生かして、本学の教育研究活動を効率的、効果的に推進し、本学の魅力を高めてくれるものと期待できる。

法人の経営管理の面では、学内での要職を歴任し、学部・研究科及び大学全体の運営について豊富な知識と経験、そして優れた実績を有している。その例として、新型コロナウイルス感染症拡大の際に高い危機管理能力をもって学内業務のオンライン化に迅速に取り組んだことや、現在進行中の第3期中期計画に策定されているDX推進による業務の改善及び効率化において、最高デジタル責任者として強力なリーダーシップを発揮していることが挙げられる。さらに、こうした学内での活躍に加え、学外で培った地域や民間の視点での経営感覚に裏打ちされた豊かな構想力を有している。したがって、今後厳しさが増すと思われる大学の財務状況や少子化時代において、理事長として法人運営の舵取りを任せるに足る、高い経営管理能力を備えていると判断できる。

全国で大学を取り巻く環境が一段と厳しさを増す中、氏は、本学の現状と課題を冷静かつ正確に認識し、教育研究環境、財務状況、また地域貢献のあり方を見直しと整備を喫緊の課題として挙げている。公立大学である本学のあり方について全学を挙げた改革に意欲と使命感を持ち、またそれに対応する十分な資質、実績、能力を持つ前田香織氏は、次期理事長として適任であると判断し、理事長候補者に選考した。